

## 観光学習の魅力と課題

成蹊小学校 内川健

### 1. 観光学習の魅力と課題（○成果 △今後の課題）

- 地域を理解するための魅力や課題の発見，地域の特色や課題を総合的に理解していく学習ができる。
- 観光という視点の導入は，その地域がどう変容していくのか(してきたのか)を他の要素と関連付けながら考察することができる。
- 観光は子ども達の関心が高く，観光の視点を取り入れると，社会科の授業がより活性化することができる。
- 観光に起因する社会問題や利害関係，価値対立する諸問題は，子ども達の選択・判断する力を養う機会につながり，地域や社会の見方・考え方を育むことにもつながる。
- △子ども達にどのような能力を付けさせたいのか，どのような力が育めるのか，特に育成すべきコンピテンシーについての研究と検証がさらに必要である。
- △観光に関わる人達(観光協会，旅行会社，観光客，住民)とのネットワークの構築があると取り組みやすい。

### 2. 実践事例①『ESDの観点を踏まえた観光学習』

地域社会に内在する観光問題を持続可能な観光の実現という視点で考察することを通して，持続可能な社会の形成者として求められる資質・能力の育成に寄与する授業開発を行った。小学校第5学年「環境を守る わたしたち—持続可能な観光と街づくり—」の単元を構想した。観光公害の問題が報告されている世界遺産登録地域を事例として，その実態と原因及び社会的・経済的・環境的な側面の影響について調べる。その上で，持続可能な社会や地域の発展をめざした施策の妥当性について価値判断する学習である。本単元は観光公害に着目し，観光がもたらす正負の影響に関する認識と持続可能な観光を実現するための方策について考えさせる単元構成とした。

単元の第一次は，観光産業の重要性の認識を行う学習を行った。特に現代観光の現状認識と，経済活動としての観光産業の重要性を認識させる学習である。インバウンドの現状と外国人観光客の観光動向の把握を行い，訪日外国人観光客が急増している現状を把握した。その上で，世界遺産に登録されている「白川郷荻町地区」を事例地として取りあげ，現在生じている問題の事実とその原因及び社会的・経済的・環境的側面からの地域への評価及び考察を行った。児童は，白川郷荻町地区が世界遺産に登録されたことで，経済効果や知名度が高くなったことを認識した。一方で，観光客の増加は，伝統的な街並み景観の維持や生活環境の悪化といった問題を招いていることを理解した。観光における恩恵と損失の対立した概念の中で，児童は地域の発展や観光化の推進に対してジレンマを抱えるようになった。つまり，観光化の負の影響は地域の良さを消しかねないという問題意識につながった。

単元の第二次は，観光及び観光産業がもたらす地域への影響について考察をした。京都市内で生じている観光公害を取り上げ，観光客が京都市を訪れる目的を考え，京都市に観光客が来ることでの恩恵と損失について検討及び評価を行った。まず，児童は京都市の観光振興は，市内の人的交流や賑わいを生み出し，観光客が商店街や市の経済効果をもたらしていることについて認識した。外国人観光客の増加は路線バスの乗車に関するトラブルがあることや，食べ歩きのマナー違反，イベントの中止や落書き問題などを引き起こし，京都市を訪れる観光客が集中することで，住民の生活環境が脅かされる事実について理解した。そこで，観光公害を起こさないためにできる対応策として宿泊税の是非を問う意見交換を行い，京都市の観光の問題点やアイデアを共有する時間を設定した。

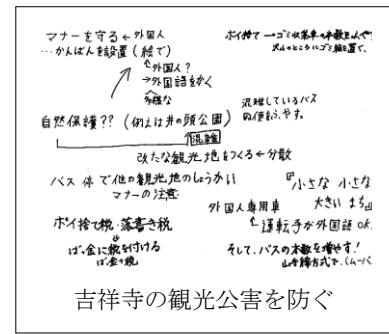
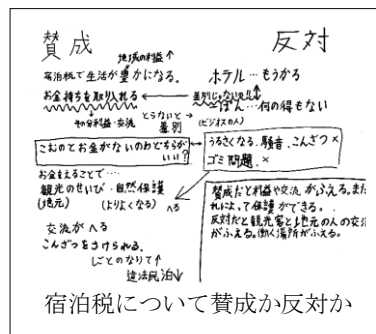
単元の第三次は，持続可能な観光のための提案の妥当性を検討する学習である。実現可能な提言を議論し合い，環境を保全してこそ将来にわたって観光開発の実現ができるという認識のもとで意見交換を行った。ここでは，本校の身近な地域である武蔵野市の観光の現状を把握して，今と未来を踏まえたまちづくりに対して提案する学習を展開した。議論を通じて，児童からは未来志向な提案や意見が

多く出された。観光客が困っていることは、むしろその地域に不足している部分であると結論付けた。市への提案として、自分たちの出来ることを含めた観光ポスターを作成した。

観光学習は、環境問題やまちづくりの学習活動としての意義も大きい。また、持続可能な観光を実現するための

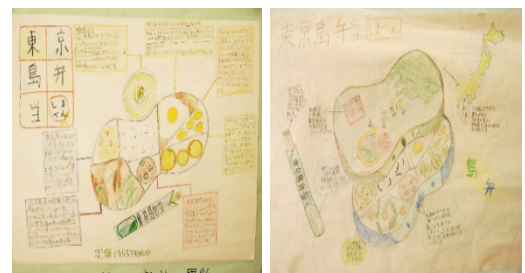
方策を提言できる能力の育成は必要な資質・能力である。観光は、恩恵と損失を含め、地域の問題、国内の問題、世界の共通する問題である。街の不足している部分に気づき提案できることや、価値対立や矛盾が学習の中で生じ、社会的な判断をもとに議論され、選択・判断をする学びにつながるということが明らかとなった。

内川健・佐藤克士 (2019)『持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習 —イギリス地理教育「単元事例案」を手がかりにして—』サステナビリティ教育研究第1号, p13-25.



### 3. 実践事例②『観光を通じて地域の魅力を提案する学習』

4年生の社会科で、東京都の魅力が詰まった『駅弁』の商品開発を行う学習を行った。東京の名産品・特産品、あるいは観光的な要素などを踏まえた『東京』を学ぶ学習である。東京都の観光資源を追究して、その魅力を詰め込んだ駅弁を構想することで、観光地として見た東京の魅力を追究していった。単元の『東京の駅弁』を考える時間では、東京都の特色をパッケージ（器の形、包装紙など）と食材（主食・おかず）の観点から捉え調べていった。子ども達は、江戸東京野菜の存在に気付き、興味を持って調べた。駅弁を構想することが、結果的に東京の観光や魅力の再発見につながり、東京の様子について横断的にまとめることができた。開発した駅弁は、開発発表会を開いて保護者に旅行会社に向けてプレゼンテーションを行い提案する学習につなげていくことができた。



学習成果としては、①地域に史跡名所がなくても、食材や工芸品も含めた魅力を形にして提案していくことができること、②内容理解になりがちな学習が、地域の現状や歴史、あるいは生産者を通じた人のいる風景を通じて学習が展開できること、③観光が地域の産業や歴史、食文化などを包括するために、地域の特色や課題を総合的に理解していく学習につながるということが明らかとなった。

内川健 (2019)『小学校社会科における地域の魅力と課題を題材とした観光学習の授業開発』新地理 64 号-3 p83-85

### 4. 実践事例③『持続可能な社会の形成者に寄与する観光学習』

本研究は、持続可能な社会の形成者育成に寄与する観光単元を開発し、その有効性について検証することである。そのために、観光研究の最も重要な概念の一つとして捉えられているジョン・アーリの「観光のまなざし」論を援用し、小学校第5学年 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」の授業を開発した。産業としての観光は、多様性・変動性・地域性等を兼ね備えた産業であるが故に、教科書では観光と情報技術サービスの活用が結果的に観光地にどのような影響を及ぼすのかまで考察できる内容構成が必要である。②「観光のまなざし」論を踏まえると、メディアが観光地にもたらす影響について理解させていくことは、観光の学習を展開していく上で欠かせない視点である。そのためにも、観光業そのものの特質や観光が地域に与える影響への考察は、観光地形成の概念的な理解を獲得していく上では改善の余地があること、が明らかとなった。

佐藤克士・内川健 (2020)『「観光のまなざし」論を組み込んだ社会科観光学習—小学校第5学年 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」の場合—。サステナビリティ教育研究』第2号 p13-24. (掲載予定)